

(活動報告書様式)

団体名	山形県立村山産業高等学校農業部バイオテクノロジー班		
事業名	県民を巻き込んだ絶滅危惧植物の保護・増殖活動		
助成事業区分	協働助成事業（一般型） 【県政課題：多様な主体の連携による生物多様性への理解及び保全活動の促進】		
団体の 所在市町村	村山市	事業費	468,844 円
		うち助成金額	410,000 円



#### ■事業目的

本事業は、絶滅危惧植物ヒシモドキとオキナグサにおいて、自生地の環境調査や生息域外での保全方法について検討し、それらの活動に積極的に県民の参加を促すことで、県民の生物多様性の保全や環境保全に関する理解向上を目指す。

#### ■実施内容

ヒシモドキやオキナグサの現地調査は、5月から11月ごろに実施した。実施においては山形県環境科学研究センターの協力を得た。また、オキナグサに関しては、山形市南山形地区住民と協力した活動を実施しており、現地における栽培管理も通年で実施した。

また、自生地保護については、村山市内のため池において、ヒシモドキの自生地保護を実施した。これは、

山形県環境科学研究センターおよび村山市役所などと共同で実施した。自生地における日射量の増大を目的とした刈払いや雑草の除去を実施した。

栽培試験では、オキナグサとヒシモドキの増殖に関わる試験を本校で実施した。また、オキナグサの栽培試験は、本事業期間中に南山形地区において地元住民の約20名が実施した。本校での試験は、本校生徒約30名が関わり、通年実施した。

オキナグサやヒシモドキに関する栽培体験や環境学習については、村山地域を中心に実施した。6月には山形県環境科学研究センターの公開デーや山形新聞社主催の最上川200kmを歩く、森の感謝祭において、小学生や一般参加者合計約

80名を対象として実施した。

#### ■事業効果

ヒシモドキやオキナグサの保護・増殖技術の確立によって、それぞれの保護活動の基盤ができた。しかし、自生地の環境を大きく改善することは、非常に難しく今後大幅な改善が必要であると考えられる。また、地元住民と高校生、自治体が連携した環境保全活動が展開され、県民参加型の環境学習イベントを多数実施することができた。

#### ■今後の展望

住民の視点になった事業の実施に努める。地元住民が興味を持ち、参加することが目標であり、「ただの研究活動」に終わらないことが必要である。住民への周知と研究活動の両立とバランスが必要である。